

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力
城南学園幼稚園 園長 太田友子
園長室だより

平成26年7月8日



「見える幼稚園」をめざして

クラスだよりへの反応！

7月7日（月）は全園児が集まって、7月生まれの誕生会を開催しました。ようやく全園児が集まってお話を聞くことができる時期に入ったからです。「仕込み」は4月から、年少組はクラスごとに話を聞く力を育ててきました。ますます「城南学園幼稚園」のパワーはアップしていきそう！乞うご期待を！

「クラスだより」の一番下に感想をいただくコーナーを設けると早速嬉しい反応がありました。ありがとうございます。元気をいただきました。一部をご紹介します。

- ・毎回楽しみにしております。普段の可愛らしいやりとりや先生がどのような思いをもって子どもたちとかかわってくださっているかもわかって、親もかわるヒントをいただいています。幼稚園でのことをあまり話したがないので、「うた遊び」の欄を参考に会話を広げていることも多々あります。これからも楽しみにしております。
- ・「いのちがいちばん」と口にすることがありました。幼稚園の掲示にもありましたが、4歳児から「いのち」という言葉が出ることに驚きと嬉しさもありました。どのようなお話を教えていただいているのか気になりました。
- ・毎月のクラスだよりを読んでいて、「なんとすてきなところと言葉をもった子どもたちなの。」と感心させられています。我が子は甘えてばかり、わがままを言ってばかり…友だちからたくさんの刺激、すてきなところと言葉をもらってほしいです。

「共感するところ」

昨今、いじめや暴力、虐待など痛ましい事件が毎日のように生起しています。みなさんも心を痛めておられることでしょう。

これらの共通する課題の一つに、想像する力の貧しさがあげられています。「共感するところ」とも言われています。このころは、生まれながらにもっているのではなく、自分の思いを共感してもらう体験や、共感して涙する大人の姿を観察することを通して育まれていきます。例えば、子どもがこけて泣いているとき、「痛かったねえ。」と抱きしめてもらうと、自分の痛みを共感してもらった体験をします。反対に「だから危ないと言ったでしょ。」と怒鳴られるだけ…。これでは共感するところは育ちません。また、テレビで被害の様子を見たとき、我が身に置き換えて涙する親の姿を見たとき、子どもは共感することを学んでいきます。反対に「そんなこと…自分がぼやぼやしていたからや。」などと冷やかな反応や暴言を吐いている姿を見ていると、共感とは真反対のことを学びとっていきます。園では、子どもの思いをことばだけでなく姿や表情からも受け止めることを大切にしています。そして、それを適切なことばに置き換えて返しています。



「その本を貸してほしかったのかな。」「うん」「じゃ、貸してって言ってごらん。」「貸して…」「うまく言えてよかったね。」「貸してくれたお友だちに、ありがとうも言おうね。」

共感するところが育まれていきます。